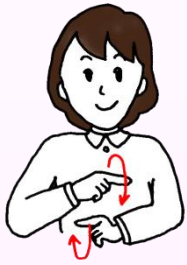


平成 29 年度県立高等学校・県立中等教育学校における



手話に関する 取組事例集



高校教育課
平成 30 年 3 月

はじめに

共生社会の実現を目ざして、平成 27 年 4 月 1 日に神奈川県手話言語条例が施行されました。

この条例は、ろう者とろう者以外の者が、お互いの人権を尊重して意思疎通を行いながら共生することのできる地域社会を実現するため、手話の普及等に関する基本理念を定め、県の責務や県民、事業者の役割を明らかにし、並びに手話の普及に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るために定められています。そして、県の責務として手話の普及並びに、手話に関する教育及び学習の振興等を行い、手話を使用しやすい環境を整備すること、また、県民の役割として、手話に対する理解を深めるよう、努めることが求められています。

その趣旨に則って、平成 28 年度から平成 32 年度の 5 年間を見据えて「神奈川県手話推進計画」が策定され、各学校においても、様々な手話に対する理解を深める取組が進んでおります。

本事例集は、平成 29 年 5 月の「手話の取組強化月間」等を中心に資料を提供していただいた学校の協力のもとに作成し、今回で 3 集目になります。

今後も、本事例集等を参考に、各学校の実態に応じて手話に関する積極的な取組の推進をお願いいたします。

もくじ

☆手話のあいさつ	1
----------	---

☆授業での取組

- | | |
|-----------------------|---|
| 1 相模原青陵高等学校 家庭・「家庭総合」 | 2 |
| 2 大井高等学校 福祉・「社会福祉基礎」 | 3 |

☆生徒会活動での取組

- | | |
|----------------------------|---|
| 1 横浜緑ヶ丘高等学校 朝のホームルーム及び全校集会 | 4 |
|----------------------------|---|

☆学校行事での取組

- | | |
|---------------------------|---|
| 1 橋本高等学校 手話講習会・伝言ゲーム | 5 |
| 2 川崎北高等学校 体育祭・「手話による選手宣誓」 | 7 |
| 3 平塚中等教育学校 体育祭・「手話ダンスの実施」 | 8 |

☆掲示物の工夫

- | | |
|----------------------------|----|
| 1 寒川高等学校 ホームルーム教室へのポスター掲示 | 10 |
| 2 大楠高等学校 掲示物の工夫 | 11 |
| 3 平塚湘風高等学校 掲示物の工夫・「手話絵の作成」 | 12 |

☆部活動の取組

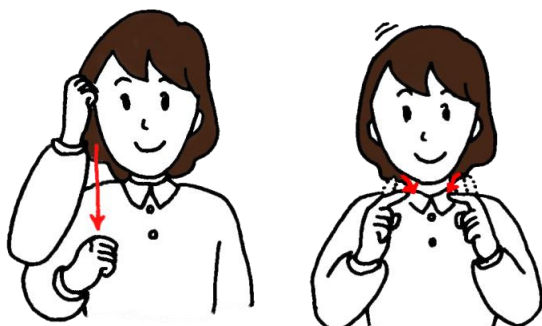
- | | |
|------------------------|----|
| 1 座間総合高等学校 ソフトボール部の壮行会 | 13 |
|------------------------|----|

☆その他

- | | |
|--|----|
| 1 上溝南高等学校 地域連携・「バンダパンダまつり」 | 14 |
| 2 二俣川看護福祉高等学校 ろう特別支援学校との交流会 | 15 |
| 3 菅高等学校 教職員・「朝の打合せ」
各クラス・「朝のホームルーム」 | 16 |

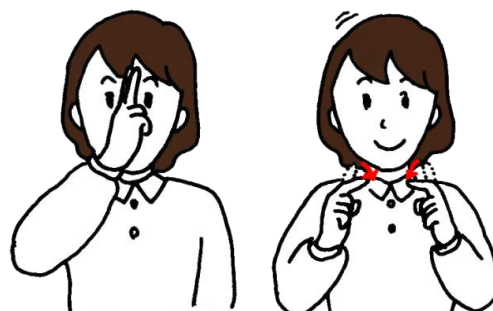
手話のあいさつ

おはよう



「朝」という手話（右手のこぶしを下に下ろす）と「あいさつ」という手話（人差し指を折り曲げる）をあわせます。

こんにちは



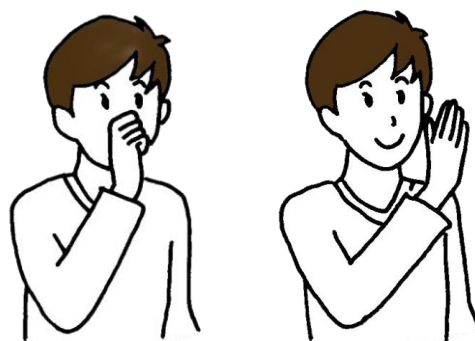
「昼」という手話（指で12時を表す）と「あいさつ」という手話（人差し指を折り曲げる）をあわせます。

ありがとう



左手の手のひらは下向き、右手で一回切るようにします。

よろしくおねがいします



右手のにぎりこぶしを鼻にあて、軽く前を出して、手を開き、前に少し出します。

テーマ(活動の目的)：福祉のこころを育てる、手話で会話を楽しむ。

- 1 実施回数 週1回2時間連続授業(3回分)
- 2 対象者 2年生 240名
- 3 指導者 教諭1名
- 4 実施内容
 - ・「指文字」「手話」を習得し、「手話ソング」を一緒に歌う。
- 5 生徒の感想
 - ・手話によるコミュニケーションが理解でき、個人でも習いに行きたいと思った。
 - ・手話を知って、大学受験のプレゼンテーションでも披露することができた。
- 6 その他 <成果・課題>
 - 成果** 手話はあくまでもコミュニケーションの方法の一つであることを改めて認識することができ、ツールとして活用することで生徒の自信につながった。
 - 課題** 普段、生徒たちに手話を使う環境がないため、なかなか意識が向上しない。より上達させるためにも、手話を使う学校環境づくりが重要である。また、専門の講師による出張授業を可能にしたい。

授業プリント

○数をたずねてみましょう

No	質問の内容	手話での表現の仕方
①	参加者は何人?	参加/人/いくつ?
②	お父さんはおいくつですか?	父/年齢/いくつ?
③	開会式が始まるのは何時?	開会式/始まる/時間/いく?
④	その携帯電話はいくらだった?	参加/金/いくら?
⑤	赤ちゃんの体重は?	赤ちゃん/体重/いくつ?
⑥	あなたの誕生日はいつ?	あなた/生まれる/いつ?

<関連する単語>大正、昭和、平成、年、～円、身長、～cm、～kg

○1週間の生活

No	質問の内容	手話での表現の仕方
①	月曜日に、友だちに会いました	月曜日/友だち/会う/～した
②	毎週火曜は手話サークルに行きます	毎週/火曜/手話/サークル/行く
③	先週の水曜日、劇を見に行きました	先週/水曜日/劇/見る/行く
④	来週の木曜はデパートに行きます	来週/木曜/デパート/行く
⑤	金曜日の午後はボランティアに行きます	金曜日/午後/ボランティア/行く/
⑥	第2、第4土曜日、学校は休みです	第2/第4/土曜日/学校/休み/
⑦	日曜日、手話コーラスの発表があります	日曜日/手話/コーラス/発表

<関連する単語>午前、明日、あさって、昨日、おととい、来年、今年、去年、過去、未来

※工夫した点

手話で歌を歌う場合、その歌詞の選び方は、外来語の歌詞が入っていないものを選ぶ。

テーマ(活動の目的)：聴覚障害者との簡単なコミュニケーションがとれるようにする。

- 1 実施回数 週2回の授業
- 2 対象者 「社会福祉基礎」履修生徒 92名
- 3 指導者 神奈川聴覚障害者協会の講師の方 3名
- 4 実施内容 あいさつ、自己紹介
- 5 単元目標 「あいさつ、家族紹介、数、住所、学校」を手話で説明する。
- 6 評価の観点
 - 〔関心・意欲・態度〕聴覚障害、手話について関心を持ち、手話に主体的に取り組んでいる。
 - 〔思考・判断・表現〕手話の意味について考え、判断・表現している。
 - 〔知識・理解〕手話に関する基礎的な知識を身に付け、活用している。
- 7 生徒の感想
 - ・普段の授業で学んだ基礎的な手話の知識や技術を実践する場が設定され、意欲的に取り組むことができた。
 - ・楽しく学ぶことができたのでよかった。
- 8 その他 <成果・課題>
 - 成果 1学年の約半数が毎年履修している。
 - 課題 「必修選択」の科目での実施しているため、更に多くの生徒が手話に触れることができるよう学校全体での取組が必要である。

授業プリント

社会福祉基礎

【学校のことを話しましょう】
学校での勉強や部活動の手話を学
得意なことなども話せるようにい

<覚えよう>

- 小学校 中学校 高校
- 先生 生徒 勉強
- 国語 数学 理科
- 美術 書道 家庭
- テスト 入る
- 好き ⇔ 嫌い
- 簡単 ⇔ 難しい

○部活

- 野 球 サッカー
- バスケットボール
- ダンス
- ボランティア

社会福祉基礎

【あなたの家を紹介しましょう】 1年 組

地名の手話を学び、住所を紹介し、
交通手段を説明できるようにしましょう。

<覚えよう>

地名	日本	神奈川県	足柄上郡	
	大井町	松田町	開成町	
	山北町	中井町	南足柄市	
	小田原市	足柄下郡	箱根町	
	真鶴町	湯河原町	中郡	
	二宮町	大磯町	平塚市	
	茅ヶ崎市	秦野市	伊勢原市	
	厚木市	海老名市		
	交通手段	バス	電車	車
		バイク	歩く	走る
	通う	～から～まで	○分	
	住所	駅	学校	

1. 私の住んでいるところは _____ です。
 2. 私の通っている高校は足柄上郡大井町にあります。
 3. 私は _____ で高校に通っています。
 4. 家から学校まで _____ 分です。
 5. 家から駅まで _____ で行きます。

テーマ(活動の目的)：「全校生徒が参加可能な、そして手話が身近に感じられる活動」を生徒会が企画し、全校の手話の普及を目指す。

- 1 実施回数 奨励基金による手話学習：18回
全校集会：1回
- 2 対象生徒 全校生徒 計840名
- 3 指導者 奨励基金を活用し、手話を学習した生徒（3年生1名）
※ 手話研修は2年次に受講
- 4 実施内容
＜朝のHRでの取組＞
 - ・手話による簡単なあいさつや指文字が書かれたプリントを各クラスで全生徒に配付した。
 - ・各クラスの学級委員が中心となり、手話によるあいさつの練習をした。
＜全校集会＞
 - ・「学びの奨励基金」を活用して、手話の講習会を受けた生徒が、手話を交えながら活動を報告及び学校名等を手話で伝える方法を全校生徒へ教えた。
- 5 生徒の感想
＜全校生徒の感想＞
 - ・「おはよう」や「ありがとう」の手話を覚えることができた。
 - ・指文字の一覧表を見ながら、指文字で単語を伝えあうことができた。
 - ・相手の口を見ることで、指文字の理解がスムーズになることが分かった。
＜報告をした生徒の感想＞
 - ・手話を少し習得したことで、以前は、ろう者の方を見かけても気にせずに通り過ぎていたが、今では手話を読み取りたい、話しかけたいと思うようになった。
 - ・手話を交えた報告を、まったく話したこともない生徒も集中して聞いてくれて嬉しかった。
- 6 その他 ＜成果・課題＞
 - 成果** 学校の特色を生かし、生徒主体の活動を通して、全校生徒に手話に親しみを感じさせることができた。
 - 課題** 手話を使う場面を意識できるよう工夫させたい。

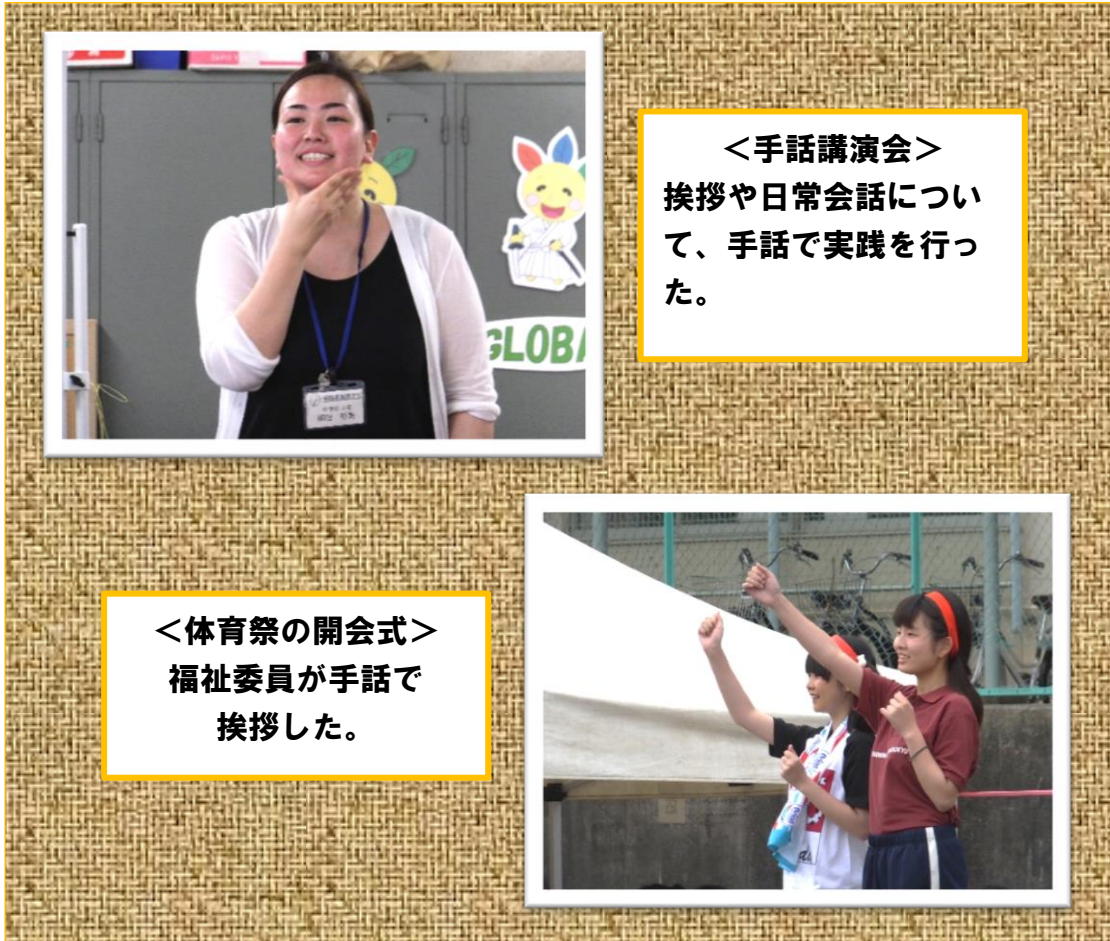
全校集会



テーマ(活動の目的)：手話を学び実践することで、手話に関心を持ち理解を深める。

- 1 実施回数 1回(80分間)
- 2 対象者 生徒26名、教職員11名 計37名
- 3 指導者 外部講師(相模原養護学校より派遣)
- 4 実施内容
 - ・手話を用いて、あいさつや簡単な日常会話を学び、受講者生徒同士で実践した。
 - ・自己紹介の練習をし、近くの人同士で自己紹介し合った。
 - ・伝言ゲーム(10人程度のグループに分かれ、与えられた題について手話で次々にしりとり手話をしていく)をし、その題の手話・ジェスチャーにより何を表現しているかを当てていく。
- 5 生徒の感想
 - ・手話は難しいものだと思っていたが、実際、学んでみると実用的にできていて身近なものに感じた。
 - ・これから手話を使う機会があるかもしれないので、これを機にもっと手話を学ぼうと思った。
- 6 その他 <成果・課題>
 - 成果** 手話を学び実践することで、手話に関心を持ち理解を深めることができた。
 - 課題** 自主的に参加した生徒の意識は高かったが、参加人数が少なかったため、事前の広報活動、日頃の福祉委員会の活動を学校内外に広めていきたい。

手話の様子



配付プリント

No.1

手話講座

【基礎講座：日常会話】

- ①挨拶を学び、近くの人と手話で挨拶をする。
 - ②自己紹介の練習をし、近くの人同士で自己紹介しあう。
 - ③趣味の内容を手話で表現する。(わからない場合には講師の方に聞く。)
- ※①、②、③の「基本的」内容を練習した後、以下の「応用編」に入る。

【応用編：伝言ゲーム】

- 与えられた問題について手話で表現する。手話がわからなければジェスチャーで隣の人に表現し理解してもらいリレーゲーム。
 - (ア) 参加者約40名を10人ずつ4グループに分ける。
 - (イ) それぞれのグループに10個の手話で表す問題を与える(一人一題)。
 - ※この10個は、シトリ型に連続しており、お題を当てるヒントになっている。
 - (例) ①お化け→②けん玉→③ままごと→④トウモロコシ→⑤傘→⑥洗濯機→⑦木の葉→⑧ミッキーマウス→⑨スターバックス→⑩スイカ。
 - (ウ) グループ1番目の人が2番目の人に自分のお題を手話・ジェスチャーで伝える。
 - (エ) 2番目の人(受け手・見ての方)は1番目の人が何を表現しているのか自分なりに当てる(解釈する)。
 - (オ) 2番目の人はさらに自分の持っている問題を3番目に伝えていく。
 - (カ) 以後、10人目まで進めていく。
- ※(カ)終了後、それぞれのグループ内で、正解となる10個の問題を発表。
※何人の人が正確に問題を伝えられたかどうか。何がどう伝えられたかを各グループで話し合う。

No.2

かきしてみよう!!

① 学校

② 注意 「物」の練習は「おはよう」です。

③ 意味・順番

④

テーマ(活動の目的)：体育祭をとおして、全校生徒が手話に触れ、興味・関心を広げる。

- 1 実施回数 計1回
- 2 対象生徒 3年生 計4名
- 3 指導者 教諭1名
- 4 実施内容
 - ・6月2日に実施された体育祭において、各団の団長が手話を使って自己紹介と選手宣誓を実施し、全校生徒に紹介した。また、その内容について、全校生徒に向けて、生徒会役員が「手話ポスター」を作成し、事前に教室や校内に掲示し、広報した。
- 5 生徒の感想
 - ・手話を用いて会話をする事は日常的なことではないが、様々な人とコミュニケーションを図ることのできる手段の一つであるので、簡単なあいさつや自己紹介ができるようにしたいと思うきっかけとなってよかった。
- 6 その他 <成果・課題>
 - 成果** 仲間内だけではなく、多くの方との交流が広まる可能性を秘めていることに気付くことができた。
 - 課題** 実際に手話を活用する場面において、照れずに実施できるようになることが課題である。

手話による選手宣誓



テーマ：体育祭で手話ダンスをすることにより「手話」を身近なものとして体験する！

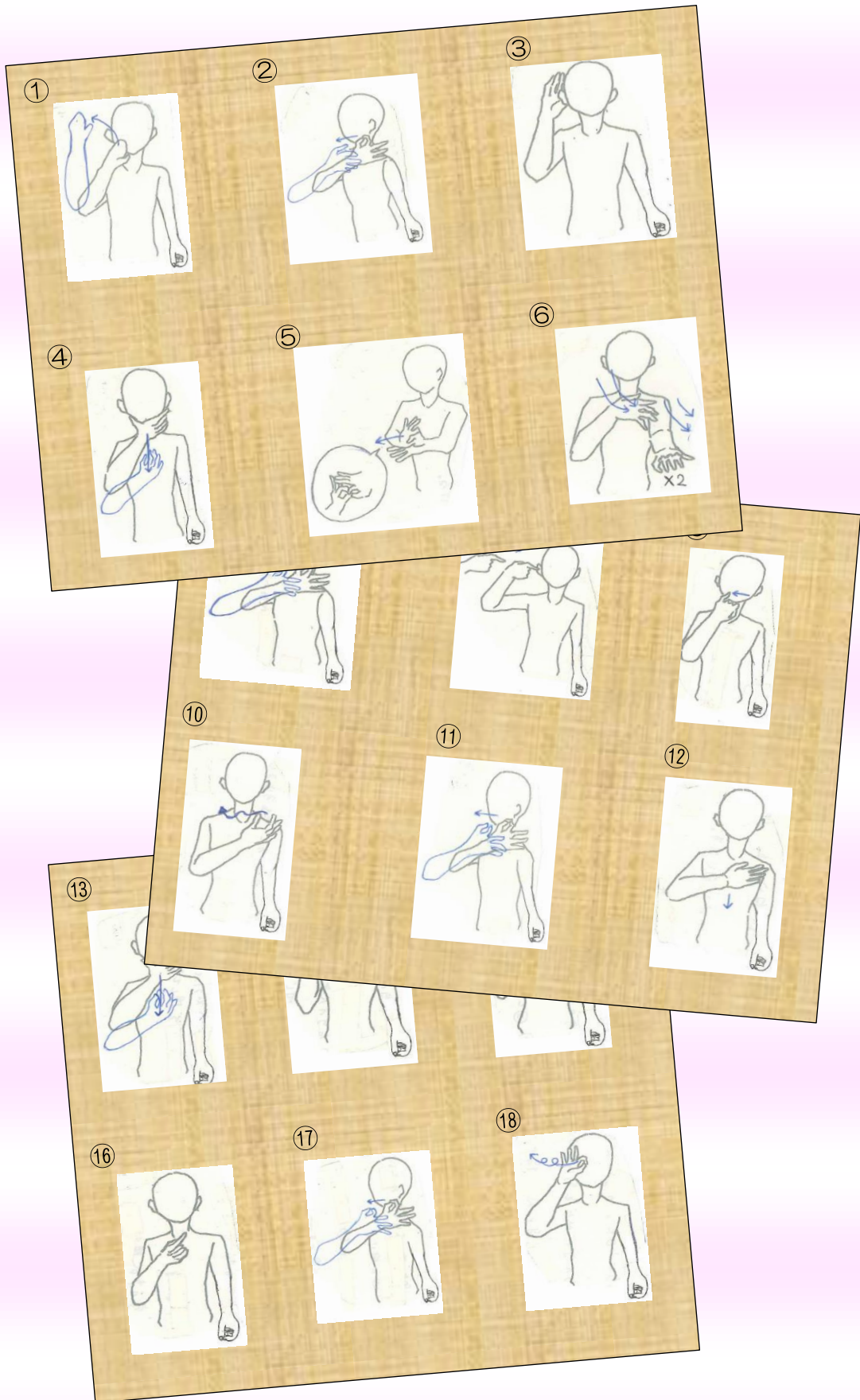
- 1 実施回数 体育祭の時1回
- 2 対象者 前期課程生徒 480名
- 3 指導者 福祉委員会生徒
- 4 実施内容
 - ・体育祭において、前期課程の生徒全員で「海の声」に合わせて手話ダンスを実施する。
 - ・練習は、授業や放課後の時間を利用する。
- 5 生徒の感想
 - ・手話を始めて経験した。
 - ・手話に対する意識が高まった。
- 6 その他 <成果・課題>
 - 成果** 手話を体験するきっかけとなり、生徒も手話を身近なものとして感じられるようになった。
 - 課題** 今回実施したことを、様々な機会に取り入れて「手話」を身近なものとして広めていきたい。

手話ダンス「海の声」

【振付の内容】

- ① 右手の手のひらを前に向け、顔の前で上に向かって弧を描く。
- ② 右手で「OK」のポーズをして、のどに置き、前に出す。
- ③ 右手の手のひらを前に向けて、耳に当てる。
- ④ 右手の親指と人差し指をのばして、のどに当て、手をすぼませて下げる。
- ⑤ 「OK」のポーズをからませ、前に出す。
- ⑥ 両手の指を広げて、斜め下に2回下げる。
- ⑦ ②を繰り返す。
- ⑧ 軽く曲げた右手の人差し指を、耳に2回近づける。
- ⑨ 右手の小指の先を口先に当て、右に引く。
- ⑩ 手のひらを上向きにし、波立たせながら右に引く。
(なめらかにジグザグさせる。)
- ⑪ ②を繰り返す。
- ⑫ 右手の甲を胸の前に置き、下げる。
- ⑬ ④を繰り返す。
- ⑭ 右手の手のひらを前に向ける。
- ⑮ ⑭を手前にひねって返す。
- ⑯ 右手の人差し指で相手を指す。
- ⑰ ②を繰り返す。
- ⑱ 「OK」のポーズを目に置き、円を描いて右に動かす。

手話ダンスの振付け



テーマ(活動の目的)：ホームルーム教室に掲示することで、手話に係る興味関心を高める。

- 1 実施回数 1ヶ月間ホームルール教室に掲示
- 2 対象者 全校生徒 958名
- 3 指導者 ホームルーム担任
- 4 実施内容
 - ・日常会話の代表的な手話一覧ポスターを作成し、手話に対する理解を深めさせた。併せて、各ホームルーム担任が簡単な手話を紹介した。
- 5 生徒の感想
 - ・手話に係る簡単な表現に触れることができた。
- 6 その他 <成果・課題>

成果	手話に触れるよい機会となった。
課題	手話をより身近なものとするためには継続した取組が必要と考える。

教室掲示用ポスター



テーマ(活動の目的)：全校生徒が手話に触れ、身近に感じる機会を設け、手話に対する興味・関心を高める。

- 1 実施回数 2回
- 2 対象者 全校生徒
- 3 指導者 司書教諭、教諭（生徒支援グループ）
- 4 実施内容
 - ・ 図書委員会が図書室内に手話コーナーを設け、図書委員会が作成した「手話カルタ」を展示するとともに、手話に関する書籍を紹介する。また、「手話カルタ」は、文化祭で発表した。
- 5 生徒の感想
 - ・ 手話に対する理解や知識が高まった。
- 6 その他 <成果・課題>

成果	一部の生徒（図書委員）の理解・関心は高まった。
課題	普及の部分において課題が残った。

掲示の様子



テーマ(活動の目的)：手話絵を通して、手話に親しみ、手話を使えるようにする。

- 1 実施回数 5月から3ヶ月間
- 2 対象者 生徒会本部役員及びコミッククリエーション部の生徒 13名
- 3 指導者 総括教諭2名
- 4 実施内容
 - ・コミッククリエーション部の生徒があいさつなどの基本的な手話の絵を作成し、MCC（図書館）前の掲示板に掲示して紹介した。
- 5 生徒の感想
 - ・自分の名前や学校を手話で表現できるようにしたい。
 - ・手話のあいさつが自然にできるようになりたい。
- 6 その他 <成果・課題>
 - 成果** 登校時や通行する廊下で手話に触れることにより、生徒や教職員が手話を身近に感じ、必要性を実感することができた。
 - 課題** 今後も、各種行事のあいさつなどで、簡単な手話を取り入れていきたい。

掲示物

「学校」の手話



5月5日は
手話の日です。
皆さんも是非手話に
挑戦してみてください！

「高等」の手話



「大丈夫」の手話



「さようなら」
の手話



「湘風」の手話



テーマ(活動の目的)：手話への理解を深める。

- 1 実施回数 1回
- 2 対象者 ソフトボール部生徒 30 名を含む全校生徒 744 名、教職員 58 名
- 3 指導者 手話同好会の顧問
- 4 実施内容
 - ・女子ソフトボール部の関東大会出場壮行会で、生徒会長がエールを送り、手話同好会の生徒が手話通訳を行った。
- 5 生徒の感想
 - ・テレビで手話通訳を見るけど生で見るとは初めてだった。
 - ・手話を知ってもらえるのはうれしい。
 - ・全校生徒の前では緊張したが、一生懸命やったので力強いエールを送れたと思う。
- 6 その他 <成果・課題>
 - 成果** 手話同好会の活動を全校生徒が理解し、手話について意識付けができた。
 - 課題** 今後は学校行事や生徒会行事等の司会の手話通訳等に活動を広げ、更にスキルアップをしたい。手話を生徒が身近に感じられるよう、手話に触れる機会を増やしたい。

テーマ(活動の目的)：バンダパンダまつりにおける本校自作テーマソング「僕らの番田」の手話合唱を通じて、保護者・地域の方々との交流し、地域の多様性に触れ、自己理解を深める。

1 実施回数 4回(内練習3回)

2 対象者 205名

3 指導者 外部講師(手話サークル「ラポール代表」)

4 実施内容

- ・10月29日(日)実施された地域連携行事(「バンダパンダまつり」)において、地域の手話サークル「ラポール」と連携して、「バンダパンダまつり」のテーマソングとして本校教職員が作曲し生徒が作詞した「僕らの番田」を、手話に翻訳した。
- ・テーマソングの手話実演に向けて、外部講師による全体練習を2回、個別練習を1回行った。
- ・当日は、共同開催者であるJR東日本、近隣小・中学生、相模原中央支援学校保護者・生徒保護者、地域の方々が自主的に加わり、会場が一体となったエンディングイベントとなった。

5 生徒の感想

- ・地域の方々や相模原中央支援学校の生徒などといろいろな交流ができた。
- ・今年は手話でコーラスをして、楽しくできたし、いろいろな方が昨年度のことを憶えてくれていて地域の方々との交流が深まった。
- ・手話コーラスに楽しく取り組むことができた。
- ・手話の練習会もあり、良い経験になった。

6 その他 <成果・課題>

成果

- ・手話を学ぶことを通して、聴覚障害への理解が深まった。
- ・エンディングイベントである手話コーラスを通して、特別支援学校や地域の方々等の多様な在り方に触れることができた。

課題

- ・手話への理解を深めるために、手話学習の機会を授業として設定し、全校生徒を対象とした取組として充実させる。
- ・地域を巻き込んだ手話のイベントを実施し、障害者との相互理解を深める。
- ・地域の福祉施設と連携し、福祉への理解を深める。

テーマ(活動の目的)：ろう特別支援学校との交流会によって、手話への理解を深めるとともに、興味・関心を高める。

- 1 実施回数 1回
- 2 対象者 ろう特別支援学校生徒 20名・教職員7名
二俣川看護福祉高校生徒28名・教職員3名
- 3 実施内容
 - ・横浜市立ろう特別支援学校高等部の生徒との交流会を実施した。
 - ①お互いの学校紹介(スライド、手話歌)
 - ②グループに分かれ学校見学
 - ③グループごとにトークタイム参加者
- 4 生徒の感想
 - ・普段、ろう者の方と話をする機会がないが、とてもよい経験になった。
 - ・伝えたい手話単語が分からない時も口語で読み取るなど、丁寧に対応してくれたので嬉しかった。
 - ・自分の手話が通じたとき、相手の手話が分かった時、手話部に入ってよかったと感じた。
- 5 その他 <成果・課題>
 - 成果** ろう特別支援学校との交流は初めてであったが、手話部の生徒にとっても実際に手話を使う機会となり、またコミュニケーションをとることも楽しいと感じられたようだった。
 - 課題** 今後も継続して交流を続けていくことができると良いと考えている。

ろう特別支援学校との交流会



その他
3

菅高等学校 教職員・「朝の打合せ」
各クラス・「朝のホームルーム」

テーマ(活動の目的)：日常会話で使う手話に興味・関心を持つ。

- 1 実施回数 5回
- 2 対象者 全校生徒 1124名
- 3 指導者 教職員
- 4 実施内容
 - ・【教職員の朝の打合せ】
総務環境グループの教職員が各ホームルーム担当に「今日の手話」をレクチャーした。
また、手話の掲示用イラストを各ホームルームに配付した。
※「今日の手話」では、簡単なあいさつや表現など2、3種類を紹介した。
 - ・【朝のホームルーム】
クラス担任が教室内に掲示用イラストを掲示し、「今日の手話」を生徒にレクチャーした。
※2日目については、ろう者関連の記事について感想を書かせた。
- 5 生徒の感想
 - ・手話、ろう者に興味が持てた。
 - ・手話を習いたいと思った。
 - ・日本はまだ手話に対する理解が足りない。
 - ・これからは視覚障害の人に分かりやすく伝えたい。
- 6 その他 <成果・課題>
 - 成果** 生徒の手話に対する興味や関心を高めることができた。また、あいさつなど簡単な手話について実際に行い、その由来などに触れることができた。
 - 課題** 時間の使い方や内容の精選などに課題が残る。

掲示用ポスター



④【あいさつ編】

①【おはよう】



右手のこぶしを鼻に見立てて頭から枕をはずすように下ろす。

②【ごめんなさい】



二本の指を鼻と唇の間に立てて12時を指す。

③【ごんげん様】



手のひらを前に向けて、両手を顔の横に置き、顔の前で交差させる(涙)...



両手の人さし指で、お互いがお辞儀をするようにする(あいさつ)...

めだ上編

④【ありがとう】



小指側で左手の甲をトンとたたく...

⑤【ごめんなさい】



●手を開き、指をそろえて上から下へ軽く下ろしながら頭を下げる。



視線と人さし指で眉間をつまむようにする。

⑥【熱い想いを伝えろ！編】

①【頑張れ!!!】



自分の前でコブシを握って軽く2回トントンと叩く。

②【大好き!!!】



親指と人さし指を開いて、あごに立てる。



なめ前に出しながら指先を合わせる。

③【I LOVE YOU!!!】



【I】



【LOVE】



【YOU】



印	刷	平成30年 3 月26日
発	行	平成30年 3 月26日
編	集	者
		神奈川県教育委員会教育局指導部
		高校教育課長 岡野 親
発	行	者
		神奈川県教育委員会
		〒231-8509 横浜市中区日本大通33
		TEL (045)210-1111 内線8258～66